

コラム 4

ダルフル国内避難民キャンプ訪問記



2011年6月、私は、南ダルフル州の州都ニャラ市内にあるオタッシュというアラブ系国内避難民(IDP)キャンプを訪問した。本当は、アフリカ系のIDPが生活しているキャンプを訪問したかったが、武器が蔓延していて治安もよくないうえ、協定により政府関係者は立ち入れず、アレンジができないという。

まずは、コミュニティのリーダーに趣旨を説明して、インタビューさせていただき許可を貰う。よそ者に対する警戒感は一IDPキャンプ内でも非常に強い。

このキャンプには、現在12万人程度のIDPが住んでいるという。彼らに、IDPキャンプの問題点を聞いてみた。

「給水については、キャンプ人口が増えたが、井戸はそのまま、量が不足している。保健については、ミーズ病が蔓延しており、毎日5〜7名が死亡しているが、具体的な対策がとられていない。教育については、キャンプ内に5つの小学校があるが、1教室200名詰め込まれているところもあり、改善が必要だ。食糧については、配給が減り、必要量の60%しか受け取ることができない」とのこと。最近支援が減っていることに不安を感じているようだった。

私は、あまりキャンプの環境がよすぎて、周りのコミュニティよりも恵まれてしまうのはどうかと思うが、もう少し支援が必要かもしれない。彼らに紛争の原因を聞いてみたが、短時間で、しかも政府の役人の前では何も話してくれない。

「2003年までは、アフリカ系もアラブ系も共存していた。政治的なものだと思うが、自分たちにはわからない。(村へ戻るための必要な支援にかかる質問に対し)水や学校などの施設がどうなっているかわからないが、それは是非支援してほしい。自分たちは半農半牧だったが、農具も家畜も全て失った。こういう支援もないと生きていけない」

支援の必要性は理解できるが、今なお、200 万人近くが避難しているダルフールでの復興事業は本当に膨大なものになると思う。

以上